

納内地域の活性化に向けて（H27.3更新）

納内地域集落対策協議会

1 納内地域の概要

納内地域は、明治28年から29年にかけて、屯田兵により200戸、1,102人が入植して開拓がはじまり、現在の農業を中心としたまちとして発展してきました。

また、明治31年には納内駅が設置されたことにより、駅前を中心に市街地が形成され、この中心市街地から約4km四方に住居が広がっています。

納内地域は、昭和38年に深川町、一已村、音江村と、昭和45年には多度志町と合併し現在の深川市となっています。

(1) 人 口

納内地域は、合併前の昭和36年に人口4,967人、969世帯を数えましたが、それ以降は、転出による過疎化や少子高齢化などで人口が減少し、平成27年2月には、1,820人、954世帯となっています。

年 次	人 口	世 帯 数
昭和36年	4,967	969
平成15年	2,421	1,073
平成27年 2月	1,820	954

世代別の人口の特徴としては、15歳未満の年少人口が6.3%、15歳から64歳までの生産年齢人口が48.7%、高齢者人口が45.0%となっており、北海道と比較して高齢者人口が占める割合が20.3ポイント高く、高齢化の進行が進んでいます。

また、高齢者の独居世帯は、121世帯となっており、全世帯の12.1%を占めています。

世 代	納 内 地 域		北海道
	人 口	割 合	
年少人口（0～14歳）	122	6.3%	12.0%
生産年齢人口（15～64歳）	935	48.7%	63.3%
高齢者人口（65歳以上）	865	45.0%	24.7%
合 計	1,922	100.0%	100.0%

出典：納内地域～平成25年10月住民基本台帳
北海道 ～平成22年国勢調査

(2) 農 業

①経営面積

納内地域の基幹産業である農業の経営耕地面積は、1,472haで、水田が1,326ha、90.1%を占めています。

この面積を104戸の農業者で耕作していることから、一戸あたりの平均耕地面積は14.2haとなっており、これは北海道の水田農家の平均耕地面積の14.3haとほぼ同じです。

区 分	水 田	畑	果 樹	合 計
経営耕地面積	1,326ha	130ha	16ha	1,472ha

納内地域の農家数：104戸（個人経営95戸、法人9戸）

②年齢別経営状況

104戸の農業者のうち、61歳以上の経営者が53戸（51%）と半数を占めています。

後継者は、18戸（17.3%）にいますが、そのうち14戸が未婚であるため、今後、農業経営を継続する上での課題となっています。

区 分	戸 数	後継者			水田作付 面積 a	転作面積 b	経営面積 a+b
		未婚者	あり	未婚者			
40歳以下	9	4			14,494	3,050	17,544
41～50	14	2	2	1	24,302	3,318	27,620
51～60	28	2	8	7	37,643	9,363	47,006
61～65	18		5	4	19,183	2,133	21,316
66～70	16		2	1	8,637	2,490	11,127
71歳以上	19		1	1	6,491	705	7,196
合 計	104	8	18	14	110,750	21,059	131,809

③離農者の居住状況

高齢化などで離農されても、農業設備や住宅の処分が多額の費用を要することなどもあり、そのまま農村地域に居住している世帯が約45戸あります。

こうした離農世帯は、高齢の夫婦世帯や独居世帯が多い状況となっています。

(3) 商 業

最盛期には、35店ありましたが、現在では食料品の販売店が3店となっているほか、次のようになっています。多くの店舗は経営者が高齢化しており、今後も店舗数が減少する可能性があります。

・食料品販売店	3店	・自動車修理、販売店	2店
・電気店	1店	・理美容店	6店
・飲食店	4店	・建築業等	3店
・薬局	1店		

(4) 公共施設・交通機関等

①公共施設

深川市納内支所、コミュニティセンター、診療所（週5日診療、毎週水曜日の午後は訪問診療）、納内小学校、納内中学校（平成26年3月閉校）、クラーク記念国際高等学校

②交通機関

JR：深川～納内～旭川間 上り10便、下り9便

バス：深川～納内間 1日14往復（土日10往復）

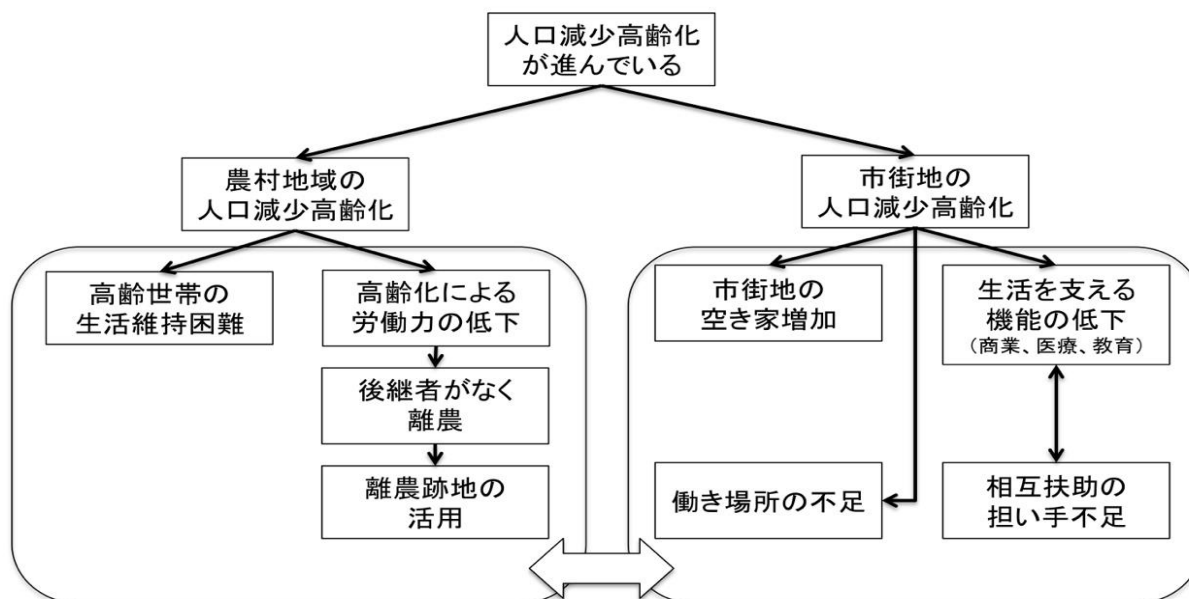
③生活関連施設

郵便局、信用金庫、農協、ガソリンスタンド等

2 納内地域の課題（アンケート調査などより）

納内の農村地域では、高齢世帯における除排雪の困難さや、買い物や通院といった移動の困難さなど、高齢世帯が自力で生活を維持していくことが難しくなっています。また、基幹産業である農業においても、後継者がいない農家では「高齢化＝離農」といった問題も生じてきています。一方、市街地においては、人口減少を背景に空き家が増加しているほか、店舗の数が減少するなど地域の生活を支える諸機能が低下しつつあり、また、これまでの地域活動の担い手が高齢化し、相互扶助が思うように行なえなくなりつつあります。

農村地域の高齢世帯への生活支援を進めるためには、市街地における地域活動の担い手の掘り起こしが必要です。また、離農された方が安心、安全に暮らすために、市街地の空き家を活用した移転も考えられますが、そのためには、市街地の利便性や魅力を高めたり、高齢者の活躍の場をつくっていく必要があるなど、納内地域における農村集落の維持・活性化は、農村地域のみならず、市街地の課題解決と両輪で取り組んでいく必要があります。



(1) 空き家の増加

地元製材所の閉鎖に伴う従業員の転出や拓殖大学北海道短期大学の市内への移転、高齢化に伴う転居・転出などにより、空き家が増加したため、市街地の空洞化の問題が生じていることから、こうした空き家を活用していく取り組みが求められます。

(2) 定住対策

アンケート調査では、納内地域への定住意識は高いのですが、65歳以上の高齢者世帯で約2割、75歳以上の単身高齢者世帯で約3割の方が、将来的に転居せざるを得ないと考えていることから、納内地域の魅力を高めていくような、また、安心して暮らすことができるような取組が求められます。

(3) 高齢者への支援

農村地域では、車のない離農世帯が買い物や通院に支障をきたしているほか、アンケート調査では、75歳以上の高齢者世帯で、通院や買い物で車を運転している方が約半数いることから、今後、車の運転が難しくなった時の対策も含めた高齢者の買い物や通院への支援が求められます。

また、同じく75歳以上の高齢者世帯で、自分と家族で大雪の除雪や屋根の雪下ろしを行っている方が約半数近くいることから、今後、除排雪が難しくなった時の対策が求められます。

(4) 農村地域から納内市街地への集住

アンケート調査では、農村地域の高齢者世帯で、市街地への転居を考えている方が約2割いることから、買い物や通院の利便性の高い納内市街地への転居を促すような取り組みが求められます。

(5) コミュニティの活性化

アンケート調査では、コミュニティの担い手となる64歳以下の世帯で、半数以上の方がお祭りなどに参加していることから、今後、さらなるコミュニティの活性化に向けて、地域イベントなどに参加しやすくなるような取組が求められます。

(6) 納内中学校跡地の利活用

平成26年3月に閉校となった納内中学校跡地については、同年6月に深川市からクラーク記念国際高等学校に正式に譲渡され、硬式野球部の専用施設として有効活用されることとなりましたが、同校との密接な連携のもとに、地域の方々とのふれあいの機会を増やしていくなど、地域の一員として同校学生の地域事業や地域活動への積極的な参画を促していくような取組が求められます。

(7) 地域医療の確保

納内診療所は、平成25年3月に常勤医師が退任して以降、医療法人アンリー・デュナン会深川第一病院の協力を得ながら医師派遣を受け、週2日の診療体制（内科、放射線科）を維持してきましたが、平成26年10月から納内地域に移住された医師に診療業務を委託し、同年11月から週5日（毎週水曜日の午後は訪問診療）の診療体制となっています。

なお、納内診療所は、築50年以上経過して老朽化が進み、平成25年4月にX線撮影装置が更新されましたが、その他の医療機器は古くなっており、納内地域で安心して暮らしていくためにも、早期の改築が求められます。

(8) 農業の振興

基幹産業である農業を守っていくため、点在する離農者の移住及び住宅の解体撤去を促進させ、農業後継者対策や営農規模拡大に向けた取組などを進めていくことが求められます。

3 めざすまちの姿

- (1) 納内地域に暮らす人たちが、住み慣れた地域で、いつまでも住み続けたいと思えるまちづくりを基本に、地域に賑わいや活力を生み出して行くことを目指します。
- (2) 地域に暮らす人たちが、お互いに支えあい、助けあって、安心して暮らし続けるために、市街地への集住を推進するなど、安心・安全なまちづくりを目指します。
- (3) 地域に暮らす人たちが、誰でも参加できるふれあい事業の継続と新しい事業の取り組みを目指します。

4 納内地域の活性化に向けた今後の取組の方向

(1) 農村地域の再生

- ① 農村地域の高齢者の生活、営農支援の仕組みの構築
- ② 離農された方などの市街地への集住化

- ③ 農村資源を活かしたコミュニティビジネスの起業の推進
 - ④ 後継者育成と離農地を集約した規模拡大の推進
- (2) 市街地の再生
- ① コミュニティ拠点「サロンなごみ」を活用した多世代交流の推進
 - ② クラーク記念国際高等学校との連携による地域づくり
 - ③ 納内診療所の機能充実と納内に立地する介護施設との連携の推進
 - ④ 冬期お試し集住施設を活用した夏期お試し移住体験の実施

5 納内地域の活性化に向けた具体的な取組

(1) 平成26年度の具体的な取組

① 過疎集落等自立再生対策事業（総務省補助事業）

○ 地元商工会議所の空きスペースを活用した住民交流の拠点づくり（サロンなごみの設置及び運営）

- ・ 地域並びに納内に来町する方々の憩いの場
- ・ カフェ風にリフォームし、ふれあいサロンとして活用
- ・ 地域間交流事業の開催

○ 市街地の空き家等を活用した住み替え体験

- ・ 農村地域の高齢者等を対象に、冬期間の住み替え体験

② 空き家の状況調査、集住の意向調査

○ 住み替え可能な空き家の調査と住み替え希望者の調査・把握

- ・ 住み替え意識の高い農村地域の高齢者等の空き家への住み替え促進

③ 納内中学校跡地の有効活用

○ クラーク記念国際高等学校への協力

- ・ クラーク記念国際高等学校硬式野球部の専用施設として有効活用
- ・ 納内地域全体でのクラーク記念国際高等学校への支援体制の構築

④ 地域イベントの活性化

○ 地域住民が参加しやすい魅力的なイベントの実施

- ・ 各種団体が企画するイベント等を通じて住民が参画して交流促進を図る
- ・ 納内ふるさと夏まつり、伝統文化を通しての交流

⑤ 集落支援員の導入

○ 集落支援員を中心に上記取組の実施

- ・ 専任職員を納内支所に配置し、地域の諸問題を解消していく

⑥ 専門部会の設置

○ 各課題の解決に向けた具体的な取組を進めるため3つの専門部会を設置

- ・ コミュニティ活性化部会（部会長：中本博大 推進メンバー：15名）
- ・ 地域活性化部会（部会長：谷岡優 推進メンバー：16名）

- ・ まちなか居住・安全安心部会（部会長：印牧久俊 推進メンバー：15名）

(2) 平成27年度以降の具体的な取組

納内地域協議会（全体）

1 地域づくりのビジョンと戦略の作成と地域内共有

- ・ 住民参加によるワークショップの開催

コミュニティ活性化部会

1 農村資源を活かしたコミュニティビジネスの起業の推進

- ・ 大学や企業などとの連携による農村資源の洗い出し及びニーズの把握
- ・ 農村資源を活かしたビジネスモデルの作成及び試行
- ・ コミュニティビジネスの運営母体となる組織づくり

2 コミュニティ拠点「サロンなごみ」を活用した多世代交流の推進

- ・ 「サロンなごみ」での活動の充実（交流イベントの開催、地元農産物や花きなどの販売、地元農産物を利用した新たなメニューの開発など）
- ・ 「サロンなごみ」の活用促進（農村地域の高齢者を対象とした体験会の開催など）

3 クラーク記念国際高等学校との連携による地域づくり

- ・ 同校学生と地元住民との交流機会の拡充（ワークショップの開催など）
- ・ 地域の一員として地域事業や地域活動への同校学生の積極的な参画の促進

地域活性化部会

1 農村地域の高齢者の生活、営農支援の仕組みづくり

- ・ 高齢者の生活支援ニーズの把握
- ・ 住民の相互扶助に関する意識の醸成
- ・ 大学や企業などとの連携によるボランティア活動の推進

2 営農環境の向上と離農地を集約した規模拡大の推進

- ・ 花嫁募集活動など担い手対策の充実
- ・ 新規就農者の受け入れによる後継者育成の仕組みづくり
- ・ JAなどとの連携による離農地を集約した規模拡大に向けた検討

まちなか居住・安全安心部会

1 離農された方などの市街地への集住化

- ・ 市街地への集住に向けたニーズや課題の把握
- ・ 農村地域の高齢者を対象とした冬期間の住み替え体験の実施
- ・ 市街地への集住に関するコーディネート仕組みづくり

2 納内診療所の機能充実と納内に立地する介護施設との連携の推進

- ・ 納内診療所の利用ニーズや課題の把握

- ・納内に立地する介護施設との連携に向けた検討

3 冬期集住施設を活用した夏期お試し移住体験の実施

- ・既移住者の移住動機と課題の把握
- ・夏期お試し移住体験メニューの検討及び実施

6 納内地域集落対策協議会 委員名簿

<委員>

(敬称略)

氏名	所属・職名	備考
安藤 一彦	納内町内会（納内町内会連合会会長）	会長
川中 裕	納内町内会（納内生き活きまちづくり委員会会長）	副会長
印牧 久俊	納内町内会（納内町内会連合会副会長）	部会長
山本 徳範	納内町内会（納内町内会連合会副会長）	
撫養 潔	納内町内会（納内町内会連合会理事）	
村中 輝實	納内町内会（納内町内会連合会理事）	
荒井 武敏	納内町内会（納内町内会連合会監事）	
東 廣明	納内町内会（納内生き活きまちづくり委員会副会長）	
河野 司美	納内町内会（納内生き活きまちづくり委員会事務局長）	
谷岡 優	きたそらち農業協同組合納内地区代表理事	部会長
中本 博大	深川商工会議所納内支所副支所長	部会長
水本 美津子	深川市企画総務部納内支所長	

<アドバイザー>

地方独立行政法人北海道立総合研究機構	連携推進本部	
地方独立行政法人北海道立総合研究機構	中央農業試験場	
地方独立行政法人北海道立総合研究機構	北方建築総合研究所	

<事務局>

西田 潤	北海道総合政策部地域づくり支援局地域政策課 集落対策・地域活力グループ主幹	
------	--	--

7 平成25年度の取組経過

日 時	内 容
H25. 6. 17	<p>◆第1回納内地域集落対策協議会の開催</p> <ul style="list-style-type: none"> ○協議会の設置及び役員の選出 ○納内地区の集落概況やモデル事業の今後の進め方について協議
H25. 8. 1 ～ 8. 31	<p>◆集落実態アンケート調査の実施</p> <ul style="list-style-type: none"> ○納内地域集落対策協議会による納内地区の全世帯を対象としたアンケート調査 <ul style="list-style-type: none"> ・家族の状況（世帯構成、離れて暮らしている家族の状況 など） ・納内での暮らし（交通手段、買い物の方法、除排雪の状況 など） ・納内の将来（定住意識、空き家の利活用方法、地域の活性化 など）
H25. 10. 18	<p>◆第2回納内地域集落対策協議会の開催</p> <ul style="list-style-type: none"> ○東京農工大学の若林名誉教授による講演 <ul style="list-style-type: none"> ・日本の人口問題と今後について ○アンケート調査の結果を踏まえた意見交換
H25. 11. 12	<p>◆集落問題研究会の開催</p> <ul style="list-style-type: none"> ○北海道主催による「集落問題研究会」を納内地区で開催 <ul style="list-style-type: none"> ・集落問題の現状と対策の方向性（研究会各委員より事例報告） ・納内地区の住民と研究会各委員との意見交換
H25. 11. 21	<p>◆集落問題地域フォーラム in 深川の開催</p> <ul style="list-style-type: none"> ○北海道主催による「地域フォーラム」を深川市で開催 <ul style="list-style-type: none"> ・パネルディスカッションにおいて、安藤会長より、納内地区における集落対策に関する取組を紹介
H25. 12. 25	<p>◆第3回納内地域集落対策協議会の開催</p> <ul style="list-style-type: none"> ○アンケート調査の結果を踏まえた納内地域の活性化に向けて（たたき台）について意見交換 ○平成26年度以降の取組について意見交換
H26. 1. 23	<p>◆第4回納内地域集落対策協議会＜意見交換会＞の開催</p> <ul style="list-style-type: none"> ○NPO法人グラウンドワーク西神楽の谷川理事による講演 <ul style="list-style-type: none"> ・空き家を活用したまちづくり～冬期集住と移住体験～ ○納内地域の活性化に向けて（素案）について、納内地区の住民を対象に意見交換
H26. 3. 26	<p>◆第5回納内地域集落対策協議会の開催</p> <ul style="list-style-type: none"> ○意見交換会の意見を踏まえた納内地域の活性化に向けて（中間まとめ）について協議 ○来年度の取組について意見交換

8 平成26年度の取組経過

日 時	内 容
H26.4.1	<p>◆集落支援員（1名）が納内地区に着任</p> <p>○深川市納内支所に配置し、地域の様々な課題の解決に向けて活動</p>
H26.4 中旬 ～H26.5 中旬	<p>◆空き家調査及び冬期集住調査の実施</p> <p>○市街地における空き家の状況や家屋所有者の意向、冬期集住のニーズなどについて、集落支援員による調査を実施</p>
H26.5.14	<p>◆知事の地域訪問</p> <p>○納内地域の現状と課題、これまでの取組経過や今後の取組等について知事と安藤会長、川中副会長との懇談を実施</p>
H26.6.1	<p>◆納内中学校跡地を正式に譲渡（深川市→クラーク記念国際高等学校）</p> <p>○同校硬式野球部の専用施設として活用</p>
H26.8.4	<p>◆第6回納内地域集落対策協議会の開催</p> <p>○過疎集落等自立再生対策事業について意見交換</p> <ul style="list-style-type: none"> ・組織体制、商工会議所納内支所の改修など <p>○空き家調査及び冬期集住調査の結果などについて報告</p> <p>◆専門部会の設置</p> <p>○課題解決に向けた具体的な取組を進めるため3つの専門部会を設置</p> <ul style="list-style-type: none"> ・コミュニティ活性化部会、地域活性化部会、まちなか居住・安全安心部会
H26.8.9	<p>◆「みんなで暮らすコミュニティ活性化事業」納内ふれあい夏祭りの開催</p> <p>○おもちゃすくい、地元農産物などの販売、カラオケショー、盆踊り、深川卸売市場のミニ土曜市、景品付き豊年餅まきなど</p>
H26.9.3	<p>◆「サロンなごみ」オープン</p> <p>○オープンセレモニーの開催</p> <ul style="list-style-type: none"> ・テープカット、愛称募集表彰、アトラクションなど
H26.9.4	<p>◆「みんなで暮らすコミュニティ活性化事業」親子野外映画会の開催</p> <p>○納内神社祭りに合わせて、芝居小屋で「スマーフ2」を上映</p>
H26.9.5	<p>◆「みんなで暮らすコミュニティ活性化事業」フリーマーケットの開催</p> <p>○納内神社祭りに合わせて、「サロンなごみ」に隣接した建物を借用して実施</p>
H26.9.6	<p>◆「みんなで暮らすコミュニティ活性化事業」浪漫劇団野外公演の開催</p> <p>○納内神社祭りに合わせて、芝居小屋で市民劇団による「必殺小言人」の公演</p>
H26.11.1	<p>◆納内診療所の診療体制の充実（週2日→週5日）</p> <p>○納内地域に移住された医師に診療業務を委託</p>

日 時	内 容
H26. 11. 20	<p>◆冬期集住に関する先進事例の視察</p> <p>○まちなか居住・安心安全部会のメンバーを中心に10名で、冬期集住に先進的に取り組んでいる「NPO法人グラウンドワーク西神楽」を視察</p>
H26. 12. 25	<p>◆「サロンなごみ」クリスマスコンサートの開催</p> <p>○市内在住のピアニスト真保さんと札幌交響楽団トロンボーン首席奏者山下さんによるクリスマスソングなどの演奏と、拓殖大学北海道短期大学の小西教授によるサトウハチローなどの詩や絵本の朗読</p>
H27. 1. 16	<p>◆「サロンなごみ」紙芝居&手品の開催</p> <p>○納内在住の中本さんによる紙芝居と大型絵本の朗読、緑町在住の斉藤さんによる手品の披露</p>
H27. 1. 27 ~H27. 1. 30	<p>◆「冬期集住体験事業」のテスト体験の実施</p> <p>○納内市街地の空き家を活用し、協議会メンバーによる冬期集住テスト体験（1泊2日×3グループ）</p>
H27. 1. 30	<p>◆「サロンなごみ」ヘルマンハーブの集いの開催</p> <p>○納内在住の小滝さんによる、バリアフリー楽器ヘルマンハーブの演奏と体験</p>
H27. 2. 2 ~H27. 3. 30	<p>◆「冬期集住体験事業」の実施</p> <p>○農村地域の高齢者世帯やボランティア団体などによる冬期集住住宅での集住体験</p>
H27. 3. 22	<p>◆講演会「認知症とともに生きる地域」の開催</p> <p>○松本診療所ものわすれクリニックの松本一生先生を講師に招き、「病気の理解と支援」について学び、地域における徘徊者対策を考える。</p>
H27. 3. 26	<p>◆「クラーク記念国際高等学校野球部納内後援会」の設立</p> <p>○地域活性化部会が準備を進めて後援会を設立、納内地域全体で野球部を応援する体制を構築することで地域の活性化を図る。</p>
H27. 3. 30	<p>◆第7回納内地域集落対策協議会の開催</p> <p>○納内地域の活性化に向けて（最終まとめ）について協議</p> <p>○来年度以降の取組について意見交換</p>